

書並びに所定の博士論文審査料を添えて」を、「学位申請書及び別に定める博士論文等に国立の学校における授業料その他の費用に関する省令（昭和三十六年文部省令第九号）第十三条に基づき学長が定める額の学位論文審査手数料を添えて」に改め、同条第二項中「博士論文審査料」を「学位論文審査手数料」に改め、第二十条第二項を次のように改める。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由がある場合には、
2 前項の承認を得て、博士論文の内容を要約したものを公表することができ、この場合、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

第二条 東京芸術大学大学院研究科学位（課程博士）審査規則（昭和五十四年四月一日）の一部を次のように改正する。

第十一条第二項中「当該研究科長」を「本学」に改め、「この場合において、当該研究科委員会は」を「この場合、本学は」に改める。

第三条 東京芸術大学大学院研究科学位（論文博士）審査規則（昭和五十四年四月一日）の一部を次のように改正する。

第四条中「学位申請書に次の各号に掲げる博士論文等及び書類に所定の学位審査手数料を添えて」を「学位申請書及び次の各号に掲げる博士論文等に国立の学校における授業料その他の費用に関する省令（昭和三十六年文部省令第九号）第十三条に基づき学長が定める額の学位論文審査手数料を添えて」に改め、第十三条第二項を次のように改める。

2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由がある場合には、

本学の承認を得て、博士論文等の内容を要約したものを公表することができ、この場合、本学は、当該博士論文等のすべてを求めに応じて閲覧等に供するものとする。

附則

この規則は、昭和六十一年七月一日から施行する。

〔横組〕

『東京芸術大学学報』第二四九号 昭和六十一年七月十五日 一～二頁

二 大学院音楽研究科の設置とカリキュラム

(一) 修士課程

昭和三十八年四月、大学院音楽研究科（修士課程）が設置された。

関係資料として、昭和三十七年十一月の『東京芸術大学大学院設置認可申請書』から目次と設置要項の一部を掲載する。

カリキュラムに関しては、本学の修士課程の学生に配付される履修の要領を記した冊子より掲載する。そのうち昭和三十八年度と六十二年度については全文、それ以外の年度は大きな変更があった箇所のみを掲載する。なお、冊子の名称は年度により『東京芸術大学大学院音楽研究科履修案内』（昭和三十八～四十四年度）、『東京芸術大学大学院音楽研究科履修規程』（昭和四十五～四十七年度）、『東京芸術大学大学院音楽研究科履修内規』（昭和四十八～五十八年度）、『東京芸術大学大学院音楽研究科履修便覧』（昭和五十九～六十二年度）となる。

東京芸術大学大学院設置認可申請書

このたび東京芸術大学大学院を設置したいので学校教育法第四条の

規定により認可くださるよう別紙書類を添えて申請します。

昭和三十七年十一月三十日

東京芸術大学長 小塚新一郎
文部大臣 荒木万寿夫殿

書類目次

〔原資料
中の頁〕

一 東京芸術大学大学院設置要項（音楽研究科）……………1

二 学 則……………15

1 学 則（改正案）……………

2 大学院規則（案）……………

3 音楽研究科規則（案）……………

4 学 則（現 行）……………

5 学則新旧比較対照表（関係条項のみ）……………

三 学部及び学科別学科目又は講座に関する書類……………85

1 大 学 院……………

2 基礎となる学部……………

四 履修方法及び卒業の要件に関する書類（別冊）……………115

五 職員組織に関する書類……………117

1 職員総括表と学部及び学科別教員採用予定表（大学院）……………

2 職員総括表と学部及び学科別教員表（学部）……………

3 学長並びに学部及び学科別担当教員予定表（大学院）……………

4 教員個人調書……………

(イ)履歴書 (ロ)承諾書 (ハ)所属の長の就任承諾書 (ニ)職務調書

(ホ)著書及び学術論文目録……………

六 校地等に関する書類（図面添付）……………473

七 校舎等の建物に関する書類（図面添付）……………477

1 校舎等建物面積表

2 校舎等建物室別面積表

八 設備概要に関する書類……………493

1 図書及び学術雑誌冊数表（目録添付）……………

2 標本点数表（目録添付）……………

3 機械器具点数表（目録添付）……………

九 設置に関する書類

一〇 経費及び維持方法を記載した書類……………

一一 学校法人が現に設置している学校の現況に
ついての書類 } 省略

一二 将来の計画を記載した書類……………573

東京芸術大学大学院設置要項（音楽研究科）

事項	設置者	名 称	位 置	事 由	備 考
設置者	国	東京芸術大学大学院	東京都台東区上野公園内	本大学院は芸術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めつゝ文化の進展に寄与することを目的とする	
事項	記 入				
学部	音楽学部		学部 学科等の名称	修業年限	学士号等
学科	作曲科			四年	二二二
等	声楽科			四年	二〇
の	器楽科			四年	八〇
名称	指揮科			四年	二四〇
な				四年	三八〇
ら				四年	八四八
び				四年	
に				四年	
修				四年	
業				四年	
年				四年	
限				四年	
学				四年	
士				四年	
号				四年	
等				四年	
お				四年	
よ				四年	
び				四年	
学				四年	
生				四年	
定				四年	
員				四年	

邦楽科	四年	芸術学士	一五	六〇	
音楽研究科	四年	芸術学士	二〇	八〇	
作曲専門課程	二年	芸術学修士	五〇	一〇〇	作曲科
声楽専門課程	二年	芸術学修士	一〇	二〇	声楽科
器楽専門課程	二年	芸術学修士	二二	四四	器楽科
指揮専門課程	二年	芸術学修士	二	四	指揮科
音楽学専門課程	二年	芸術学修士	四	八	楽理科
邦楽専門課程	二年	芸術学修士	六	一二	邦楽科

(謄写版・手書き)

昭和三十八年度

東京芸術大学

大学院音楽研究科履修案内

一. 履修方法について

1. 音楽研究科教科課程および学位(修士)取得のための最低単位数。

専門課程名称	必修単位	選択単位		単位合計
		必修単位	自由選択単位	
作曲専門課程	一四	一六	一六	三〇
声楽	一八	八	四	三〇
器楽	一六	一四	四	三〇
指揮	一四	一二	四	三〇
邦楽	一四	一二	四	三〇
音楽学	一四	一六	一六	三〇

二. 最終試験ならびに学位論文等について

1. 修士論文または修士作品もしくは修士演奏(以下「論文等」という。)は一年以上在学し必修科目および選択科目をあわせて二十単位以上を修得した者でなければならない。
2. 上記の論文等の審査を受けようとする者は、六月までに論文等の題目を音楽研究科長に届け出なければならない。
3. 論文等は研究科長が指定した期間内に提出しなければならない。指定期間経過後に提出したときは、その年度内に審査を行わない。
4. 修士論文、作品、演奏については次の通りとする。

1. 学生は二年以上在学し別表各専門課程別教科課程表にしたがって必修科目ならびに選択科目をあわせて三十単位以上を修得するものとする。学位取得のためには上記三十単位以上を修得し、修士論文または修士作品もしくは修士演奏の審査を受け、かつ最終試験に合格しなければならない。
2. 学生はいづれかの研究室に所属し、指導教官の指導により研究するものとする。
3. 必修科目は所属指導教官の指定するものとする。
4. 選択科目の選択にあたっては、予め所属指導教官の指導を受けて履修するものとする。
5. 学生は選択科目として学部において開設する科目を履修することができる。ただし、大学院で修得すべき単位として認められる限度は四単位以内とする。

作曲専門課程……………修士作品
 声楽・器楽・指揮・邦楽の各専門課程……………修士演奏
 音楽学専門課程……………修士論文

5. 最終試験

最終試験は論文等を中心として、筆記または口述試験により行う。

以上の試験に合格した者には「芸術学修士（東京芸術大学）」の学位が与えられる。

三. 休学および退学等について

1. 在学年限は五年とする。
2. 病気その他の理由により引き続いて二ヶ月以上欠席しようとする者は、所定の手続きを経て休学することができる。病気のため休学するときは、医師の診断書を添えなければならない。
3. 病気その他の理由で修学が不適当と認められる者は、その研究科委員会の議を経て、学長が休学させることができる。
4. 休学の期間は、一年以内とする。特別の理由のあるときは、許可を得て更に一年を限り休学を延長することができる。ただし、通算して二年を超えることはできない。
5. 休学期間は、これを在学期間に算入しない。
6. 退学を希望する者は、その理由を添えて願出しなければならない。

次に該当する者は除籍される。

- イ. 在学年限を満了した者
- ロ. 二年の休学期間を経過した者
- ハ. 授業料を滞納し、督促を受けても納入しない者
- ニ. 大学院学生として研究を継続させることが適当でないと認められる者
- ホ. 死亡または行方不明の者

其の他

学生は大学院規則。学位規則。音楽研究科規則。研究室に関する内規。その他学部諸規則を準用する。

学生は次の（四）音楽研究科専門課程別教科課程表および当該年度開設大学院授業時間表を参照の上、研究室主任教官の指導により履修計画を立てること。
 履修計画表を研究科長に届け出なければならない。

四. 音楽研究科各専門課程別教科課程について

1. 作曲専門課程教科課程表

履修区分	授業科目名		履修年次		取得単位合計
	作曲実習	作曲演習	第一年次	第二年次	
必修科目 (指導教官の指定するもの)	三	四	三	四	小計 中計 合計
	六	八	一四		

2. 声楽専門課程

○ 声楽専攻教科課程表

必修科目			履修区分	
実重 唱特 習別	演歌 曲分 習析	声楽 実習	授業科目名	
二	四	三	一年次	履修年次
二	四	三	二年次	
四	八	六	小計	取得単位合計
一八			中計	合計
			合計	

自由選択科目			必修選択科目 指導教官の指導によるもの					
授学 業部 科開 目設	授他 業專 門科 課程	音楽 教育 学	作曲法特殊研究					
			第三(近代・現代の音楽)			第二(フーガの技法と作品)	第一(作曲技法の史的展開)	
			代フ 音ラ 楽ン ス近	発12 生音 と技 原因 法の	近代 化施 法音 楽の			
四	四	四	四	四	四	四	四	四
			四	四	四	四	四	四
四	四	四	八	八	八	八	八	八
			一六					
			三〇					

○ オペラ専攻教科課程表

自由選択科目			必修選択科目		必修科目			履修区分	
授学 業部 科開 目設	授他 業專 門科 課程	音楽 教育 学	宗 教 音 楽	研究 (オペラ)	実演 技演 出法 習	分 析 演 習	オ ペ ラ 実 習	授業科目名	
				四	二	四	三	一年次	履修年次
				四	二	四	三	二年次	
四	四	四	四	八	四	八	六	小計	取得単位合計
四			八	一八			中計	合計	
			三〇				合計		

自由選択科目				必修選択科目
授学 業部 科開 目設	授他 業專 門科 課程	音楽 教育 学	宗 教 音 楽	研究 (歌 曲)
四	四	四	四	四
				四
四	四	四	四	八
四				八
				三〇

3. 器楽専門課程

○ピアノ専攻教科課程表

自由選択科目				必修選択科目					必修科目			履修区分		
授学部 開目設	他専門 課程目	音楽教育 学	ピアノ 特殊 研究	器楽特殊研究					演奏 曲分 習析	合奏 実習 (ピアノ 合奏)	器楽 実習 (ピアノ)	授業科目 名	履修年次	
				第五	第四	第三	第二	第一					一年次	二年次
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	二	三	一年次	二年次	
				四	四	四	四	四	四			三		
四	四	四	四	八	八	八	八	八	八	二	六	小計	取得 単位 合計	
一四									一六			中計		
												合計		
												三〇		

○オルガン専攻教科課程表

自由選択科目		必修選択科目		必修科目			履修区分		
(ピアノ専攻と同じ)	器楽 研究	音 楽 史	演奏 論	演奏 曲分 析 (オルガン)	実 即 興	オル ガ ン 習	授業科目 名	履修年次	
								一年次	二年次
四	八	八	八	八	二	六	一年次	二年次	
							四	四	三
四	八	八	八	八	二	六	小計	取得 単位 合計	
一四				一六			中計		
							合計		
							三〇		

○弦楽器専攻教科課程表

必修科目					履修区分		
楽曲分析 演習(2) (セロ・コントラ バス)	楽曲分析 演習(1) (バイオリン・ピ オラ)	器楽実習(3) (ハープ)	器楽実習(2) (セロ・コントラ バス)	器楽実習(1) (バイオリン・ピ オラ)	授業科目 名	履修年次	
						一年次	二年次
四	四	三	三	三	一年次	二年次	
四	四	三	三	三	小計		
八	八	六	六	六	中計	取得 単位 合計	
八				六		合計	
					一六		

○ 管楽器・打楽器専攻教科課程表

必修科目						履修区分	
授業科目名						履修年次	
器楽実習(1) (木管楽器)	器楽実習(2) (金管楽器)	器楽実習(3) (打楽器)	楽曲分析演習(1) (木管楽器)	楽曲分析演習(2) (金管楽器)	楽曲分析演習(3) (打楽器)	一年次	二年次
三	三	三	四	四	四	三	三
六	六	六	八	八	八	六	六
中計						取得単位合計	
一六						合計	
三〇							

自由選択科目	必修選択科目			必修科目	
(ピアノ専攻と同じ)	器楽特殊研究			(合奏実習)	(楽曲分析演習)
	第三(近代・現代弦楽器)	第二(ロマン派弦楽器)	第一(古典派弦楽器)		
	四	四	四	二	四
	四	四	四		
四	八	八	八	二	八
一四				二	
					三〇

4. 指揮専門課程教科課程表

自由選択科目	必修選択科目					必修科目		履修区分		
授業部 科目開設	他専門 科目課程	音楽教育 学	指揮特殊研究					指揮 演習	指揮 実習	授業科目名
			楽書特殊研究	第四歌劇	第三管弦楽音楽	第二合唱音楽	第一楽曲分析			
四	四	四	二	四	四	四	四	三	履修年次	
			二	四	四	四	四	三		
四	四	四	四	八	八	八	八	六	取得単位合計	
四			一二				一四		中計	
三〇								合計		

自由選択科目	必修選択科目		必修科目	
(ピアノ専攻と同じ)	器楽特殊研究		(合奏実習)	(楽曲分析演習)
		管打楽器		
		四	二	四
		四		
		八	二	八
一四			二	
三〇				

5. 音楽学専門課程教科課程表

自由選択科目		必修選択科目				必修科目						履修区分		
授学 業部 科開 目設	授他 業專 門科 課程 目設	音楽 教育 学	音楽学特殊研究				音楽学演習				音楽学 実習	音楽学 実習	授業科 目名	履修年次
			第四 東洋音楽史	第三 西洋音楽史	第二 音楽理論	第一 音楽美学	第四 東洋音楽史	第三 西洋音楽史	第二 音楽理論	第一 音楽美学				
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三	三	一年次	二年次
四	四	四	八	八	八	八	八	八	八	六	六	小計	取得 単 位 合 計	合計
一六			八						六		中計	合計	三〇	

6. 邦楽専門課程教科課程表

必修科目		履修区分	
邦楽実習		授業科目名	
第二 箏 曲	第一 三味線 管楽	一年次	二年次
三	三	三	三
六	六	六	六
六		中計	
		合計	

自由選択科目		必修選択科目				必修科目						
授学 業部 科開 目設	授他 業專 門科 課程 目設	音楽 教育 学	比較 音楽 学	邦楽特殊研究				邦楽演習				
				特邦 殊楽 研究 書	第三 能 楽	第二 箏 曲	第一 三味線 音楽	第三 能 楽	第二 箏 曲	第一 三味線 音楽	第三 能 楽	
四	四	四	四	二	四	四	四	四	四	四	四	三
四	四	四	四	二	四	四	四	四	四	四	四	三
四	四	四	八	四	八	八	八	八	八	八	八	六
四			二二				八				一四	
			三〇								合計	

(横組) (昭和三十八年度 大学院音楽研究科履修案内 一〇頁)

昭和三十九〜四十一年度

昭和三十九年度には、声楽専攻以外の作曲、ピアノ、オルガン、弦楽器、管楽器、指揮、音楽学、邦楽の各専攻の自由選択科目に「原典研究」が増設されるが、翌年の昭和四十年には見られない。昭和四十一年度には、全科の自由選択科目に「原典研究」の授業科目が増設されている。

昭和四十四年度
音楽教育専攻が新たに設置される。音楽教育の教科課程表は以下のとおり。

音楽教育専攻教科課程表

自由選択科目			必修選択科目						必修科目				履修区分		
学部開設授業	教育心理学	教育哲学	音楽学(Ⅱ)	邦楽(Ⅱ)	指揮(Ⅱ)	器楽(Ⅱ)	声乐(Ⅱ)	作曲(実習)	音楽教育史または音楽教育史実習	音楽教育史演習	音楽教育史特殊研究	音楽教育学演習	音楽教育学特殊研究	授業科目名	
														一年次	二年次
四	四	四	三	三	三	三	三	三	三	四	四	四	四	一年次	二年次
四	四	四	三	三	三	三	三	三	六	四	四	四	四	小計	取得単位合計
四			六						三三				中計	合計	
			三三										合計		

原典研究 二二四

(横組) (昭和四十四年度 大学院音楽研究科履修案内 一八頁)

昭和四十五年度

音楽専門課程オペラ専攻の必修科目の中に、表現Ⅰ(体操)Ⅱ(バレ)Ⅲ(演技)Ⅳ(総合実習)が増設される。音楽学では細かく分かれていた授業科目が、「音楽学演習」「音楽学実習」「音楽学特殊研究」と括られる。

以下、音楽専門課程オペラ専攻と音楽学専門の課程表を掲載する。

○オペラ専攻教科課程表

自由選択科目		必修選択科目		必修科目				履修区分		
音楽教育学	宗教音楽	音楽特殊研究(歌曲又はオペラ)	演技演出法実習	オペラ曲折演習	オペラ実習			表現Ⅰ(体操)	授業科目名	
					Ⅱ(バレ)	Ⅲ(演技)	Ⅳ(総合実習)		一年次	二年次
四	四	四	二	四	三			一年次	二年次	取得単位合計
四	四	四	二	四	三			小計	合計	
四	四	八	四	八	六			中計	合計	
三〇		八		六						

自由選択科目		
他専門課程授業科目	学部開設授業科目	原典特殊講義
四	四	四
四		
四		

5. 音楽学専門課程教科課程表

履修区分	授業科目名			履修年次		取得単位合計
	音楽学演習	音楽学実習	音楽学特殊研究	一年次	二年次	
必修科目	四	四	四	二	二	八
	三	三	四	四	四	
自由選択科目	四	四	四	四	四	八
	四	四	四	四	四	
小計			八	六	八	中計
中計			一四			合計
合計			三〇			

(横組) 『昭和四十五年度 履修規程』一六、一八頁

昭和四十八年度

弦楽器専攻の必修科目に「室内楽」が増設される。時間割表には、昭和四十二年度から「合奏実習」の中に「オーケストラと室内楽」と記されていたが、課程表の中に記されるのは、四十八年度からである。

○ 弦楽器専攻教科課程表

また、音楽教育専攻の課程においては必修科目が「音楽教育学演習」と「音楽教育学実習」のみとなり、音楽教育史関係の科目は「自由選択科目」に移行する。

弦楽器専攻と音楽教育専攻の課程表は以下のとおり。

履修区分	授業科目名									履修年次		取得単位合計
	器楽実習(1)	器楽実習(2)	器楽実習(3)	器楽実習(1)	器楽実習(2)	器楽実習(3)	器楽実習(1)	器楽実習(2)	器楽実習(3)	一年次	二年次	
必修科目	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二	二	六
	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二	二	
自由選択科目	六	六	六	六	六	六	六	六	六	四	四	一八
	六	六	六	六	六	六	六	六	四	四		
小計			六	六	六	六	六	六	六	四	四	中計
中計			一八						三二			合計
合計			三二						三二			

自由選択科目	(ピアノ専攻と同じ)	四
--------	------------	---

※「合奏実習」の履習はすべて担当教官の指示にしたがうこと。

6. 音楽教育専攻課程表

自由選択科目						必修選択科目						必修科目		履修区分	
原典特殊講義	学部開設授業	他専門課程授業科目	教育心理学	教育学特殊研究	音楽教育学特殊研究	音楽学実習	邦楽実習	指揮実習	器楽実習	声乐実習	作曲実習	音楽教育学実習	音楽教育学演習	授業科目名	
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三	四	一年次 二年次	履修年次
						四	四	四	四	四	四	三	四		
四	四	四	四	四	四	八	八	八	八	八	八	六	八	小計	取得単位合計
八						八						一四	中計	合計	
三〇												合計			

(横組) 『昭和四十八年度 大学院(修士課程) 音楽研究科履修内規』三〇四頁

昭和四十九年度

ピアノ専攻の必修選択科目に「合奏実習」として、「室内楽」と「歌曲伴奏」が増設される。

3. 器楽専門課程
○ ピアノ専攻教科課程表

自由選択科目				必修選択科目						必修科目		履修区分		
学部開設授業科目	他専門課程授業科目	音楽教育学	ピアノ楽書特殊研究	器楽特殊研究					器楽実習(ピアノ)	楽曲分析演習	授業科目名			
				合奏実習	室内楽	第五	第四	第三			第二	第一	一年次	二年次
四	四	四	二	一	一	四	四	四	四	四	四	三	履修年次	
			二	一	一	四	四	四	四	四	四	三		
四	四	四	四	二	八	八	八	八	八	八	六	小計	取得単位合計	
一六									一四	中計	合計			
三〇														

原典特殊講義	四	四	
--------	---	---	--

(横組) (昭和四十九年度 大学院(修士課程) 音楽研究科履修内規「二頁」)

昭和五十一年度

「室内合奏専攻」と「ソルフェージュ専攻」が増設される。
 また、「管打楽器専攻の必修科目中の「合奏実習」は、「合奏実習または室内楽」に変更される。

○室内合奏専攻

履修区分	授業科目名			履修年次		小計	中計	合計
	必修科目	必修選択	自由選択	一年次	二年次			
必修科目	室内楽実習	室内楽演習	室内楽特殊研究	四	三	六	一四	一六
	室内楽特殊研究	室内楽特殊研究	室内楽特殊研究	四	四	八		
	器楽特殊研究	器楽特殊研究	器楽特殊研究	四	四	八		
	オーケストラ実習	オーケストラ実習	オーケストラ実習	二	二	四		
自由選択	他専門課程授業科目	他専門課程授業科目	他専門課程授業科目	四	四	四	一六	三〇
	学部開設授業科目	学部開設授業科目	学部開設授業科目	四	四	四		
	原典特殊講義	原典特殊講義	原典特殊講義	四	四	四		
	原典特殊講義	原典特殊講義	原典特殊講義	四	四	四		
履修区分	授業科目名			一年次	二年次	小計	中計	合計
				四	三	六	一四	一六
				四	四	八	一六	三〇
				四	四	四	一六	三〇
				四	四	四	一六	三〇

7. ソルフェージュ専攻

自由選択	必修選択							必修科目				
	原典特殊講義	学部開設授業科目	他専門課程授業科目	音楽学	邦楽	指揮	器楽	声乐	作曲実習	ソルフェージュ特殊研究	ソルフェージュ研究実習	ソルフェージュ研究演習
四	四	四	三	三	三	三	三	三	四	四	四	八
			三	三	三	三	三	八				
			六	六	六	六	六	六				一六
			四	四	四	六	六	六				六
四			六							二〇		
三〇												

(横組) (昭和五十一年度 大学院(修士課程) 音楽研究科履修内規「三、五頁」)

昭和五十三年度

課程表に大きな変化はなく、全専攻とも「必修科目」「必修選択科目」「自由選択科目」という履修区分である。ただし、これまで授業科目名が細かく分野ごとに記されていたのが、ひとつにまとめて記されるようになる。

例として、作曲専攻、弦楽器専攻、音楽学専攻の課程表を掲載する。

1. 作曲専攻

自由選択科目			必修選択科目		必修科目		履修区分		
原典特殊講義	学部開設授業科目	他専攻授業科目	作曲書特殊研究	作曲法特殊研究	作曲演習	作曲実習	授業科目名	履修年次	取得単位
四	四	四	四	四	二	二	作曲実習	一年次	小計
			四	四	二	二		二年次	
四	四	四	八	八	二	二	作曲演習	小計	中計
八			八		二	二		合計	
三〇			三〇		三〇		合計		

○弦楽器

自由選択科目			必修選択科目		必修科目		履修区分			
原典特殊講義	学部開設授業科目	他専攻授業科目	室内楽実習	オーケストラ実習	器楽特殊研究	器楽分析演習	器楽実習	授業科目名	履修年次	取得単位合計
四	四	四	二	二	四	四	三	器楽実習	一年次	小計
			二	二	四	四	三		二年次	
四	四	四	四	四	八	八	六	器楽特殊研究	小計	中計
八			八		一四		合計			
三〇			三〇		三〇		合計			

○音楽学

自由選択科目			必修選択科目		必修科目		履修区分		
原典特殊講義	学部開設授業科目	他専攻授業科目	音楽学実習	音楽学特殊研究	音楽学実習	音楽学演習	授業科目名	履修年次	取得単位合計
四	四	四	二	四	三	四	音楽学実習	一年次	小計
			二	四	三	四		二年次	
四	四	四	四	八	六	八	音楽学特殊研究	小計	中計
八			八		一四			合計	
三〇			三〇		三〇		合計		

〔横組〕「昭和五十三年度 大学院（修士課程）音楽研究科履修内規」一〜四頁

昭和五十五年度

音楽専門課程オペラ専攻の必修科目に、「音楽実習」が増設される。

○オペラ

必修科目			履修区分		
オペラ実習	声楽実習	表現Ⅰ(体操)	授業科目名	履修年次	取得単位
ⅡⅢ(基礎演技)	Ⅱ(バレエ)	Ⅰ(体操)	声楽実習	一年次	小計
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		二年次	
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	声楽実習	小計	中計
Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ		合計	
二四	二四	二四	合計		

自由選択科目	必修選択科目	必修選択	
		オペラ総合実習 (含演技演出論演習)	オペラ曲分析演習
(独唱専攻と同じ) (※声楽特殊研究の単位を振り替えることができる)	声楽特殊研究 (歌曲又はオペラ)	四	二
		四	二
四	八	四	八
二二		三六	

(横組) 昭和五十五年度 大学院(修士課程) 音楽研究科履修内規「五頁」

昭和五十七年度

全専攻の自由選択科目に「楽書特殊研究」が増設される。

昭和六十二年年度

昭和六十二年年度

東京芸術大学大学院音楽研究科(修士課程) 履修便覧

VII. 専攻別教科課程表

1. 作曲専攻

科目	必修選択	必修科目		履修区分	授業科目名	履修年次		取得単位
		作曲	作曲実習			一年次	二年次	
作曲楽書特殊研究	作曲法特殊研究	作曲	作曲実習	二	一年次二年次	二	二	四
四	四	二	二	二	小計	二	二	八
		二	二	二	中計	二	二	
				二	合計			

自由選択科目	他専攻の授業科目	学部開設授業科目	原典特殊講義	楽書特殊研究
四	四	四	四	四
八				三〇

2. 声楽専攻

○独唱研究分野

自由選択科目	必修選択科目	声楽実習	歌曲分析演習	重唱特別実習	声楽特殊研究 (歌曲又はオペラ)	宗教音楽	他専攻の授業科目	学部開設授業科目	原典特殊講義	楽書特殊研究	履修区分		取得単位
											一年次	二年次	
(※声楽特殊研究の単位を振り替えることができる)	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	三	三	六
											四	四	八
		二		八	八	三		四	四	四	中計		
		三		三		四		四		四	合計		
		三		三		四		四		四	合計		

○オペラ研究分野

履修区分	必修科目						履修年次	取得単位
	オペラ基礎演技	オペラI 体操	オペラII バレエ	オペラIII 基礎演技	オペラ総合実習	オペラ曲分析演習 (含演技演出論演習)		
一年次	三	三	三	四	二	四	三	
二年次	三	三	三	四	二	四	三	
小計	六	六	六	八	八	四	六	
中計	二四			一二			中計	
合計	三六						合計	

3. 器楽専攻

○ピアノ研究分野

履修区分	授業科目名			履修年次	取得単位
	器楽実習	楽曲分析演習	器楽特殊研究		
一年次	三	四	四	一年次	一四
二年次	三	四	四	二年次	一四
小計	六	八	八	小計	二四
中計	八			中計	八
合計	三〇			合計	三〇

○オルガン研究分野

履修区分	自由選択科目						履修年次	取得単位
	室内楽実習	歌曲伴奏概論	歌曲伴奏実習	他専攻の授業科目 (他楽器専攻を含む)	学部開設授業科目	原典特殊講義		
一年次	二	二	二	四	四	四	二	
二年次	二	二	二	四	四	四	二	
小計	四	四	四	八	八	八	四	
中計	八						中計	
合計	三〇						合計	

履修区分	必修科目						履修年次	取得単位
	器楽実習	楽曲分析演習	器楽特殊研究	合奏実習	即興実技	他専攻の授業科目 (他楽器専攻を含む)		
一年次	三	四	四	二	四	四	二	
二年次	三	四	四	二	四	四	二	
小計	六	八	八	四	八	八	四	
中計	一四			八			中計	
合計	三〇						合計	

必修選択科目						必修科目			履修区分	
音楽学	邦楽	指揮	器楽	声乐	作曲実習	ソルフエージュ特殊研究	ソルフエージュ研究実習	ソルフエージュ研究演習	授業科目名	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	四	八		一年次	履修年次
三	三	三	三	三	三		八		二年次	
六	六	六	六	六	六	四	一六		小計	取得単位
六						二〇			中計	
三〇									合計	

○ソルフエージュ研究分野

- ※① 音楽学実習は、音楽学研究分野の音楽学特殊研究をもって当てる
ことができる。
- ※② ピアノを専攻した者に限る。

自由選択科目				
室内楽実習又は 歌曲伴奏概論・実習※②	楽書特殊研究	原典特殊講義	学部開設授業科目	他専攻の授業科目
二	四	四	四	四
二				
四	四	四	四	四
八				

必修選択科目			必修科目						履修区分			
特殊研究			邦楽演習 ※①			邦楽実習 ※①			授業科目名			
尺八	箏曲	三味線音楽	能楽	尺八	箏曲	三味線音楽	能楽	尺八	箏曲	三味線音楽	一年次	履修年次
四	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	二年次	
八	八	八	六	六	六	六	六	六	六	六	小計	取得単位
三三			一一						中計			
三三									合計			

6. 邦楽専攻
- 邦楽専攻には、三味線音楽、箏曲、尺八及び能楽の各研究分野に分けるものとする。

自由選択科目			
楽書特殊研究	原典特殊講義	学部開設授業科目	他専攻の授業科目
四	四	四	四
四	四	四	四
四			

自由選択科目				必修選択科目		
原典 特殊 講義	学部 開設 授業 科目	他 専攻 の 授業 科目 (楽 書 特 殊 研 究)	他 専攻 の 授業 科目 (他 楽 器 専 攻 を 含 む)	専 攻 外 邦 楽 ※ ②	研究 特殊	
					邦 楽 楽 書	能 楽
四				二	二	四
四	四	四	四	二	二	四
八	四	四	四	四	四	八
八				二 二		

※① 実習・演習は、ともに総合的なものである。

※② 学部開設授業科目の「専攻外邦楽A」又は「専攻外邦楽B」を履修すること。

VIII. 専攻別開設科目

1. 作曲専攻

履修区分	科 目 名		担 当	科 目 の 主 な 内 容
必修科目	作曲第1 研究室	作曲実習	教授 ○野田 助教授 尾高 教授(兼)永富	○印研究室主任 ※実習・演習は各専攻別のゼミナール とし、修士作品作成のための個人指 導を内容とする。
		作曲演習		
	作曲第2 研究室	作曲実習	教授 ○南 助教授 佐藤	
		作曲演習		
	作曲第3 研究室	作曲実習	教授 ○松村 助教授 浦田	
		作曲演習		
必修選択 科 目	作曲法特殊研究		教授 松村	現代管弦楽法の研究
	〃		教授 野田	現代オペラの考察
	〃		教授 南	電子音楽の理論と実習
	〃		助教授 佐藤	現代音楽におけるピアノの活用に関する考察
	〃		助教授 浦田	現代音楽における楽器特殊奏法について
	〃		助教授 尾高	
自由選択 科 目	原典特殊講義		担当教官は 時間割参照	英・独・仏・伊語・日本文学
	他専攻の授業科目			
	学部開設授業科目			
	楽書特殊研究			

2. 声楽専攻

○独唱・オペラ

履修区分	科 目 名		担 当	科 目 の 主 な 内 容
必修科目	声楽第1 研究室	声 楽 実 習 歌曲分析演習	教 授 ○高木	○印研究室主任 研究室主任教官の指導並びに専攻実 習指導 ※演習(オペラ演技演出論演習を除く) は各専攻別のゼミナールとし、修士 演奏(論文を含む)のための個人指 導を内容とする。
			助教授 峰村	
			助教授(兼)高橋	
	声楽第2 研究室	声 楽 実 習 歌曲分析演習	教 授 瀬山	
			助教授(兼)三林	
			助教授(兼)平野	
	声楽第3 研究室	声 楽 実 習 声楽分析演習	教 授 ○戸田	
			助教授 毛利	
	声楽第4 研究室	声 楽 実 習 声楽分析演習	教授(兼)○原田	
			教授(兼) 伊藤 助教授 木村	
声楽第5 研究室	オ ペ ラ 実 習 (I~III) オペラ総合実習 オペラ曲分析演習 (含む演技演出論演習)	教授(兼)○伊藤		
		教授(兼) 原田		
		教 授 長沼		
		助教授(兼)高橋		
		助教授 大町 助教授(兼)平野 助教授(兼)三林		
	重 唱 特 別 実 習	講 師(非)田中	独唱専攻のみ	
必修選択 科 目	声 楽 特 殊 研 究 (注①)		教 授 高木	フランス歌曲研究
	〃		教 授 原田	ドイツ歌曲研究
	〃		教 授 瀬山	日本歌曲研究
	〃		助教授 峰村	イタリア歌曲研究
	声 楽 特 殊 研 究 (注②) (オ ペ ラ)		教 授 伊藤 教 授 長沼	オペラ歌唱と演技
	〃		助教授 高橋 外国人教師ポッパー	〃
	〃		講 師(非)佐川	オペラ史研究(オペラ専攻)
自由選択 科 目	宗 教 音 楽		講 師(非)岳藤	
	原 典 特 殊 講 義		担当教官は 時間割参照	英・独・仏・伊語・日本文学
	楽 書 特 殊 研 究			
	他 専 攻 の 授 業 科 目			
	学 部 開 設 授 業 科 目			

(注) ①独唱専攻者が、担当教官を異にする声楽特殊研究を12単位以上修得した場合には、4単位以上を自由選択科目の単位として振り替えることができる。

②オペラ専攻者は、上記声楽特殊研究(オペラ)3科目(12単位)を修得すること。このうち、4単位については、自由選択科目の単位として振り替えることができる。

3. 器楽専攻

○ピアノ・オルガン

履修区分	科目名		担当	科目の主な内容
必修科目	ピアノ第1 研究室	器楽実習	教授 ○中山	○印研究室主任 研究室主任教官の指導並びに専攻実習指導 ※演習は各専攻別のゼミナールとし修士演奏(論文を含む)のための個人指導を内容とする。
		楽曲分析演習	助教授 米谷	
		器楽実習		
		楽曲分析演習		
	ピアノ第2 研究室	同 上	教授 ○小林	
			助教授 植田	
	ピアノ第3 研究室	同 上	教授 ○田村	
			助教授 堀江	
助教授 辛島				
ピアノ第4 研究室	同 上	教授 ○坪田		
助教授 田辺				
ピアノ第5 研究室	同 上	教授 ○安川		
		教授 高良		
オルガン 研究室	同 上	教授 ○秋元		
必修選択 科目	器楽特殊研究(前期)		助教授 米谷	アーノルド・シェリングのベートーヴェン解釈
	〃 (後期)		教授 安川	フランスの音楽について
	〃		教授 秋元	オルガン演奏論概説 オルガン音楽史概説
自由選択 科目	室内楽実習		教授(兼) 田村	
			教授(兼) 小林	
			教授(兼) 坪田	
			助教授(兼) 辛島	
	歌曲伴奏概論		教授 辛島	歌曲伴奏
	歌曲伴奏実習		教授 中山	歌曲伴奏
	オルガン合奏実習		教授 秋元	
	オルガン即興実習		講師(非) 岳藤	英・独・仏・伊語・日本文学
	原典特殊講義		担当教官は 時間割参照	
他専攻の授業科目 (他楽器専攻を含む)				
学部開設授業科目				
楽書特殊研究				

○弦楽器・管・打楽器

履修区分	科 目 名		担 当	科 目 の 主 な 内 容			
必修科目	弦楽第1研究室 (Vn)	器楽実習	教授 ○田中 助教授 山岡 助教授(兼)原田	○印研究主任 研究室主任教官の指導並びに専攻実習指導 ※演習は各専攻別のゼミナールとし、 修士演奏（論文を含む）のための個人指導を内容とする。			
		楽曲分析演習					
		同 上					
	弦楽第2研究室 (Vn)	同 上	教授 ○浦川 助教授 沢 教授(兼)日高 講師(兼)景山				
					弦楽第3研究室 (Va)	同 上	教授 ○浅妻
	管楽第1研究室 (木管)	器楽演習	助教授 ○村井				
					管楽第2研究室 (金管)	同 上	教授 ○大石 助教授 杉木 助教授 守山
	打楽器研究室	器楽実習	助教授 ○有賀				
						楽曲分析演習	
	必修選択科目	器楽(弦楽器)特殊研究第1					教授 田中
		" 第2			教授 浦川	ヴァイオリン音楽の歴史 ベートーヴェンのヴァイオリンソナタについて考察	
		" 第3			教授 浅妻	17, 18世紀音楽演奏の解釈	
		" 第4			教授 堀江	チェロ演奏発展史と現代チェロ奏法の理論	
" 第5		助教授 江口	コントラバス演奏発展史と現代コントラバス奏法の理論				
器楽(管楽器)		" 第6	助教授 村井	自己に内在するロマンについて			
" 第7		教授 大石	管楽器演奏各論				
器楽(打楽器)		" 第8	助教授 有賀	リズムとその表現			
自由選択科目	オーケストラ実習		浅妻・堀江・日高・田中・三木・江口・浦川・沢・景山 青山・杉木・山岡・有賀・大石・村井				
	室内楽実習		担当教官は「大学院指導教官名」参照				
	他専攻の授業科目 (他楽器専攻を含む)		担当教官は 時間割参照	英・独・仏・伊語・日本文学			
	学部開設授業科目						
	原典特殊講義						
	楽書特殊研究						

○室内合奏

履修区分	科 目 名		担 当	科 目 の 主 な 内 容
必修科目	室内楽 研究室	室内楽実習	教授 ○日高	○印研究主任 研究室主任教官の指導並びに専攻実習指導 ※演習は各専攻別のゼミナールとし、 修士演奏（論文を含む）のための個人指導を内容とする。
		室内楽演習		
		同上	助教授 原田	
必修選択科目	室内楽特殊研究		教授 日高	室内楽史（弦楽器による室内楽）
			助教授 原田	
自由選択科目	オーケストラ実習		浅妻・堀江・日高・田中・三木・江口・浦川・青山・杉木 山岡・有賀・大石・村井・原田・沢・景山	
	他専攻の授業科目 （他楽器専攻を含む）		担当教官は 時間割参照	英・独・仏・伊語・日本文学
	学部開設授業科目			
	原典特殊講義			
	楽書特殊研究			

4. 指揮専攻

履修区分	科 目 名		担 当	科 目 の 主 な 内 容
必修科目	指揮 研究室	指揮実習	助教授 ○遠藤 助教授 佐藤	○印研究室主任 研究室主任教官の指導並びに専攻実習指導 ※演習は各専攻別のゼミナールとし、 修士演奏（論文を含む）のための個人指導を内容とする。
		指揮演習		
必修選択科目	指揮特殊研究		助教授 遠藤	オーケストラ指揮について
	指揮特殊研究		助教授 佐藤	オペラ指揮について
	指揮楽書特殊研究		助教授 遠藤	指揮楽書について
自由選択科目	原典特殊講義		担当教官は 時間割参照	英・独・仏・伊語・日本文学
	他専攻の授業科目			
	学部開設授業科目			
	楽書特殊研究			

5. 音楽学専攻

○音楽学

履修区分	科 目 名		担 当	科 目 の 主 な 内 容
必修科目	音楽学第1 研 究 室 (体系的 音楽学)	[音楽学演習]	教 授 ○船山	○印研究室主任 ※音楽学演習は各専攻別のゼミナール とし、音楽学実習は修士論文作成の ための個人指導を内容とする。
			助教授 柘植	
			教授(兼) 角倉	
	音楽学第2 研 究 室 (西洋音楽史)		教 授 ○服部	
			教 授 角倉	
	音楽学第3 研 究 室 (日本・東 洋音楽史)		助教授 土田	
			助教授○上参郷	
		助教授(兼)柘植		
必修選択 科 目	音 楽 学 特 殊 研 究		教 授 角倉	音楽学の基本問題
	〃		講師(非) 植村	
	〃		講師(非) 蒲生(郷)	
	〃		講師(非) 小柴	
自由選択 科 目	他 専 攻 の 授 業 科 目		担 当 教 官 は	
	学 部 開 設 授 業 科 目		時 間 割 参 照	
	音 楽 学 実 験		教 授 船山 助 手 白砂	音響測定
	原 典 特 殊 講 義		担 当 教 官 は 時 間 割 参 照	英・独・仏・伊語・日本文学
	音 楽 学 演 習			

○音楽教育

履修区分	科目名		担当	科目の主な内容
必修科目	音楽教育 研究室	音楽教育学演習	教授○山本(文) 助教授(兼) 柘植 講師(非) 大畑 講師(非) 河口	○印研究室主任 ※演習はゼミナールとし、実習は修士 論文作成のための個人指導を内容と する。
		音楽教育学実習		
必修選択 科目	作曲(実習)		実習担当教官	実習担当教官の指導によるもの。
	声楽(〃)			
	器楽(〃)			
	指揮(〃)			
	邦楽(〃)			
	音楽学(〃)			
自由選択 科目	教育学特殊研究		教授 山本(文), 助教授(兼) 柘植, 講師(非) 河口 講師(非) 大畑	幼児の音楽教育
	教育心理学		講師(非)	
	他専攻の授業科目		担当教官は 時間割参照	英・独・仏・伊語・日本文学
	学部開設授業科目			
	原典特殊講義			
	楽書特殊研究			
	室内楽実習又は 歌曲伴奏実習		担当教官は「大学院指導教官名」参照	

○ソルフェージュ

履修区分	科目名		担当	科目の主な内容
必修科目	ソルフェ ージュ 研究室	ソルフェージュ 研究演習	教授 ○広田 教授 永富 助教授 細野	○印研究室主任 ※演習はゼミナールと、修士論文作成 のための個人指導を内容とする。 実習はソルフェージュの教育実習を 内容とする。
		ソルフェージュ 研究実習	教授 永富	
		ソルフェージュ 特殊研究	教授 広田 助手(兼) 白砂	
必修選択 科目	作曲(実習)		実習担当教官	実習担当教官の指導によるもの。
	声楽(〃)			
	器楽(〃)			
	指揮(〃)			
	邦楽(〃)			
	音楽学(〃)			
自由選択 科目	他専攻の授業科目		担当教官は 時間割参照	英・独・仏・伊語・日本文学
	学部開設授業科目			
	原典特殊講義			
	楽書特殊研究			

6. 邦楽専攻

履修区分	科 目 名		担 当	科 目 の 主 な 内 容
必修科目	邦楽第1研究室 (長 唄 三味線)	邦 楽 実 習	教 授 ○菊岡	○印研究室主任 研究室主任教官の指導並びに専攻実習指導 ※演習は各専攻別のゼミナールとし、 修士演奏（論文を含む）のための個人指導を内容とする。
		邦 楽 演 習	教 授 味見	
	邦楽第2研究室 (長 唄 長唄囃子)	同 上	助教授 ○赤木	
	邦楽第3研究室 (箏 曲 尺 八)	同 上	教 授 ○砂川 教 授 山口 助教授 増淵 講師(非) 北原	
邦楽第4研究室 (能 楽)	同 上	教 授 ○佐野 助教授 藤波		
必修選択科目	邦 楽 特 殊 研 究 第 1		教 授 菊岡	三味線音楽の研究
	” 第 2		助教授 赤木	長唄・長唄囃子の研究
	” 第 3		教 授 砂川	生田流箏曲の研究
	” 第 4		助教授 増淵	山田流箏曲の研究
	” 第 5		教 授 山口 講師(非) 北原	都山流尺八の研究・琴古流尺八の研究
	” 第 6		助教授 藤波	能楽の研究
	” 第 7		講師(非) 平野	邦楽楽書特殊研究について
自由選択科目	他 専 攻 の 授 業 科 目 (他楽器専攻を含む)		担 当 教 官 は 時 間 割 参 照	
	他 専 攻 の 授 業 科 目 (楽書特殊研究)			
	学 部 開 設 授 業 科 目			
	原 典 特 殊 講 義			
				英・独・仏・伊語・日本文学

IX. 指揮教官及び担当科目表

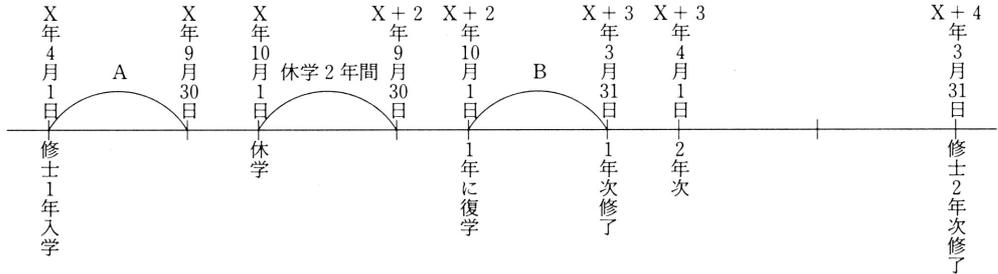
専攻	研究室	指導教官名		研究分野及び担当科目
作曲	作曲第一	教授	○野田暉行	実習, 演習, 特殊研究
		助教授	尾高惇忠	〃
		教授(兼)	永富正之	実習, 演習
	作曲第二	教授	○南弘明	実習, 演習, 特殊研究
		助教授	佐藤真	〃
	作曲第三	教授	○松村禎三	実習, 演習, 特殊研究
助教授		浦田健次郎	〃	
声乐	声乐第一 (独唱)	教授	○高木浩子	実習, 演習, 特殊研究
		助教授	峰村貞子	〃
		助教授(兼)	高橋大海	実習, 演習
	声乐第二 (独唱)	教授	瀬山真寿子	実習, 演習, 特殊研究
		助教授(兼)	三林輝夫	実習, 演習
		助教授(兼)	平野忠彦	〃
	声乐第三 (独唱)	教授	○戸田敏子	実習, 演習
		助教授	毛利順子	〃
	声乐第四 (独唱)	教授(兼)	○原田茂生	実習, 演習, 特殊研究
		教授(兼)	伊藤亘行	〃
		助教授	木村宏子	実習, 演習
	声乐第五 (オペラ)	教授(兼)	○伊藤亘行	実習, 演習, 特殊研究, オペラ演技・演出論
		教授(兼)	原田茂生	〃
		教授	長沼廣光	〃
		助教授(兼)	高橋大海	〃
助教授		大町陽一郎	〃	
助教授(兼)		三林輝夫	〃	
助教授(兼)		平野忠彦	〃	
助手	中野俊也	〃		
器楽	ピアノ第一	教授	○中山靖子	実習, 演習, 歌曲伴奏
		助教授	米谷治郎	実習, 演習, 特殊研究
	ピアノ第二	教授	○小林仁	実習, 演習
		助教授	植田克己	〃
	ピアノ第三	助教授	○田村宏	実習, 演習
		助教授	堀江孝子	〃
	ピアノ第四	助教授	辛島輝治	実習, 演習, 歌曲伴奏
		教授	○坪田昭三	実習, 演習
	ピアノ第五	助教授	田辺緑	〃
		教授	○安川加寿子	実習, 演習, 特殊研究
教授	高良芳枝	実習, 演習		

専攻	研究室	指導教官名		研究分野及び担当科目
指揮	指揮講座	助教授	○ 遠藤雅古	合奏実習, 実習, 演習, 特殊研究
		助教授	佐藤功太郎	合奏実習
音楽学	音楽学第一 (体系的音楽学)	教授	○ 船山 隆	実習, 演習, 楽器特殊研究, 実験
		助教授	柘植元一	実習, 演習
		教授(兼)	角倉一朗	実習, 演習, 特殊研究
		助手	白砂昭一	実験
	音楽学第二 (西洋音楽史)	教授	○ 服部幸三	実習, 演習
		教授	角倉一朗	実習, 演習, 特殊研究
		助教授	土田英三郎	実習, 楽書特殊研究
	音楽学第三 (日本・東洋音楽史)	助教授	○ 上参郷祐康	実習, 演習
		助教授(兼)	柘植元一	実習, 演習
	音楽教育	教授	○ 山本文茂	実習, 演習, 特殊研究
			柘植元一	音楽学実習, 演習
			専攻別担当教官	専攻別実習
	ソルフェージュ	教授	○ 広田幸夫	演習, 特殊研究
		教授	永富正之	演習, 実習
		助教授	細野孝興	演習
		助手	白砂昭一	特殊研究
		専攻別担当教官	専攻別実習	
邦楽	邦楽第一 (長唄三味線)	教授	○ 菊岡 忍	実習, 演習, 特殊研究
		教授	味見 亨	実習, 演習
	邦楽第三 (箏曲・尺八)	教授	○ 砂川康江	実習, 演習, 特殊研究
		教授	山口五郎	〃
助教授		増渕任一朗	〃	
邦楽第四 (能楽)	教授	○ 佐野 萌	〃	
	助教授	藤波重満	〃	
一般教育学		教授	佐藤 覚	原典特殊講義 (英語)
		助教授	成田英明	〃 (英語)
		教授	斎藤 一郎	〃 (仏語)
		教授	若桑みどり	〃 (伊語)
		助教授	中嶋敬彦	〃 (独語)
		助教授	檜山哲彦	〃 (独語)

X. 履修上の先例 (参考)

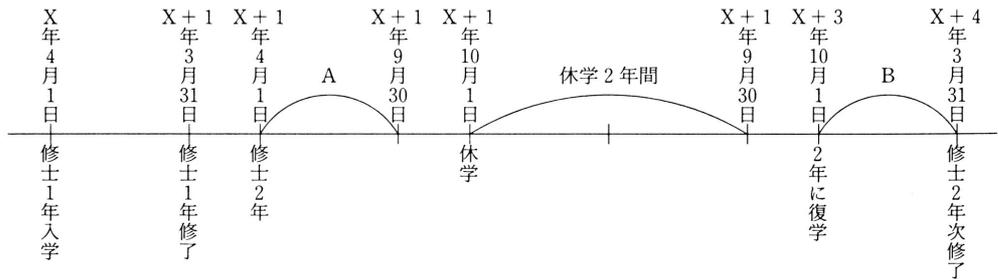
例1. 留学による休学期間をまたいだ期間の通算による単位認定

ア. 1年次に留学した場合



期間A (前期) と期間B (後期) とを通算して修士1年次の単位 (成績) を認定する。

イ. 2年次に留学した場合



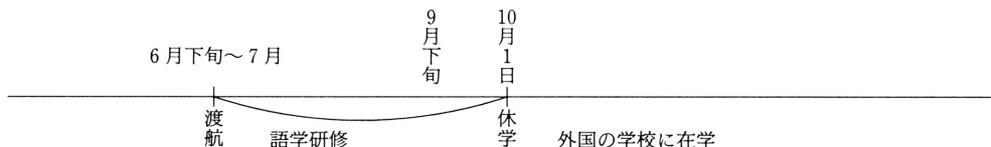
期間A (前期) と期間B (後期) とを通算して修士2年次の単位 (成績) を認定する。

- ① 休学期間をまたいだ期間の通算による単位認定は、外国留学の場合にだけ考慮され、病気・家庭の都合等の一身上の事由による場合には認定しない。この場合には、同一学年をもう一度再履修することになる。
- ② 外国留学ならば、すべて通算するのではない。通算を認めるかどうかは、その都度事由を教務委員会及び音楽研究科委員会において審議した上で決定する。
- ③ これまでに通算を認定された事例は、すべてその外国における正規の学校制度による大学・大学院又は、それらに相当すると認められている音楽院の課程に在学した場合である。
- ④ 休学願出時に留学先と期間を明示し、復学願出時にその学校に在学していたことを証明する資料を提示すること。資料としては、在学証明書・成績証明書・学生証・成績表(票)・履修票(指導教員の受講サインのあるもの)・場合によっては授業料納入済証等でよい。期間通算のためには、学位を取得したり、卒業・修了の資格を取得している必要はない。
資料原本は、教務係においてコピーを取った上返却する。
- ⑤ 通算を認める授業科目は、原則として実技科目又は半期で完結する科目若しくは実技系特殊研究とする。

通年で単位を附与する授業科目 (例：原典特殊講義、楽書特殊研究等) については、通

算を原則として行わない。ただし、そのテーマ等が同一か継続した内容のものであった場合には指導教官の意見を徴して通算を認めることがある。

ウ. 語学研修期間等の欠席扱い



外国政府給費留学生又は奨学金受給留学生等の場合、外国の学校へ入学する前に語学研修を指示されることがある。上図のような例が普通行われている。この場合には、夏季休業期間が含まれていることと、9月下旬が大学院入試期間で授業週間に含まれていないこと等によって、欠席扱いをしても $\frac{2}{3}$ 以上の出席が確保されるので、海外旅行届と欠席届を出して、10月1日から休学扱いをしている。この扱いは、その年度の学事暦等の事情によって扱いを異にすることになるので、事前に指導教官と相談の上、教務係に申し出ること。

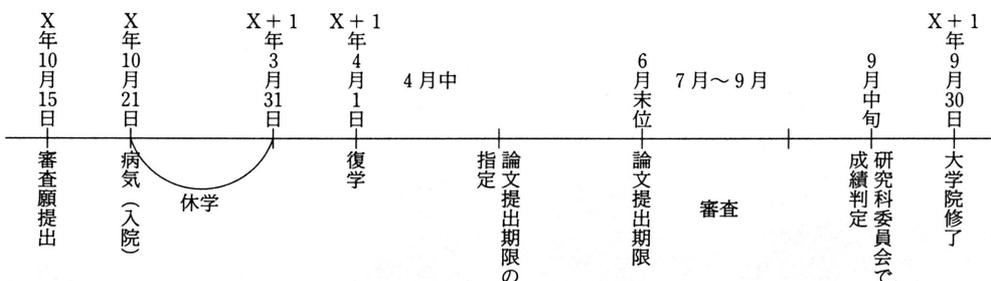
エ. 留学による休学期間をまたいだ期間の通算は、次の事由により取られた措置である。

- ① 本学では、外国の大学との単位互換協定を結んでいないこと。
- ② 休学による外国留学期間は在学期間に参入しないこと（芸大大学院学則59条、芸大学則46条）。
- ③ 休学による外国留学に対しては、単位認定を行わないこと（昭47.3.30付け文大大第226号文部事務次官通達、大学設置基準の一部を改正する省令の制定等について記三(5)(1)）。
- ④ 大学院における授業科目の履修等については、大学設置基準の規定を準用することになっている（大学院設置基準15条）。
- ⑤ 外国留学の実態は、実質的に大学院教育の継続になっていること。
- ⑥ 単位の認定は、後期の該当担当教官の平常点をもって行なうことになっていること（音楽研究科履修内規〔その他の内規〕1）。

(54. 4. 19 研究科委員会決定)
 (55. 10. 17 同上)

例2. 論文審査願を提出後、論文提出前に休学することとなった者の審査願の取扱いについて

ア. 病気（入院）した場合



イ. 外国政府給費留学生に採用が決定し、留学のため休学する場合

10 X 月 年 15 日	12 X 月 年 1 日	9 X 月 + 30 2 日 年	10 X 月 + 1 2 日 年	10 X 月 + 15 2 日 年
提 審 出 査 願 願	採 留 用 学 生 生 に 生 に	留 学 (1年10月)		復 再 学 審 査 査 願 願

上例ア又はイの場合には、音楽研究科規則10条2項の「特別の事情」として認め、次のように取扱う。

- ① 既に提出されている審査願は、復学後も有効である。
- ② 研究科委員会は、復学後に論文提出の期限を、主任指導教官の意見を徴した上で、個別に指定する。
- ③ 論文提出後にすみやかに審査委員を決め、相当の期間内に審査を終了するものとする。
- ④ 上例イの場合ように、復学の時期が審査願提出時期に近いときは、処理間違いを防止するため、重ねて審査願を提出させる。

(56.11.12 研究科委員会決定)

例3. 論文審査願提出期間中病気であった者の取扱いについて

事例 「論文審査願提出期間直前に急病により入院し、提出期間中に医師の診断書を提出した。診断書によると継続審査をした後でなければ、長期欠席（2月以内）の加療で足りるのか、それとも休学を要するのか診断を下せない状態であった。」このような場合には、論文審査願と残留希望願の両方を提出期間内に提出し（家族からでよい）、医師の診断が下された時点で、診断書によって休学の場合には審査願を生かし例2.アの扱いをする。長期欠席の場合には、論文作成に時間が必要であるので、残留希望願を生かし、3年次に留年させる。

(56.11.12 研究科委員会決定)

略記法（事務用）

55.12.11 教務委員会決定

科・声種・楽器名		略記法	科・声種・楽器名	略記法	
作曲			ホルン	Hr	
声	独唱		金管	トランペット	Tp
	オペラ			トロンボーン	Tb
	ソプラノ	S		チューバ	Tu
	アルト	A		ユーフォニアム	Eup
楽	メゾソプラノ	Ms	打楽器	Pc	
	テノール	T	室内楽		
	バリトン	Br	指揮		
	バス	B	楽理・音楽学		
ピアノ		P	音楽教育		
オルガン		Og	ソルフェージュ		
チェンバロ		Cem	邦楽		
弦	ヴァイオリン	Vn	〔略記法の表現について〕 1. 原則として、2文字以内にまとめた。 2. 頭文字は、大文字を使い、2字目は、小文字とした。 3. 科名等を表現するときは、日本語のままとし、専攻（声種・楽器名）を略記法の対象とした。 以上		
	ヴィオラ	Va			
	チェロ	Vc			
楽	コントラバス	Cb			
	ハープ	Hp			
木	フルート	Fl			
	オーボエ	Ob			
	クラリネット	Cl			
管	ファゴット	Fg			
	サクソフォン	Sx			

〔すべて横組〕（『昭和62年度 東京芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）履修便覧』13～34頁）